

# 地図縮尺による表示コントロール

「見えるまでズーム」 - 「小縮尺でズーム」 - 「大縮尺でズーム」

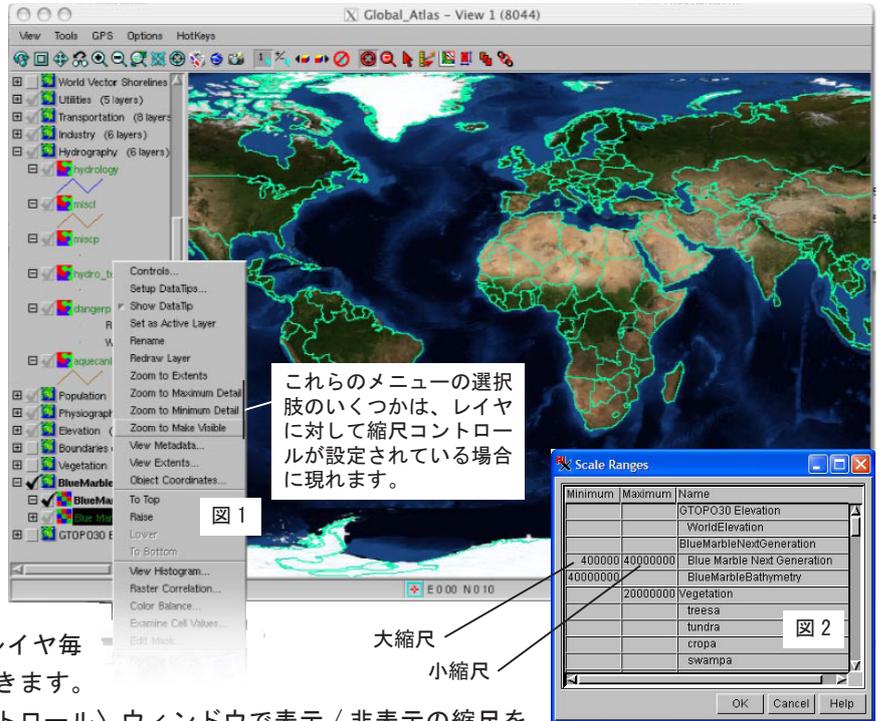
TNT 製品ではどのレイヤを表示させるかを地図の縮尺によってコントロールすることができます。最初に低解像度のレイヤで速く表示しておいて、拡大するとより解像度の高いレイヤに置き換わるようにすることができます。非常に細かい図形データを縮小して表示する意味はありません。要素間の区別が付かず、意味のない固まりとして表示されるためです。図形要素に対しては属性毎に地図縮尺の表示コントロールを設定することができますが、通常はレイヤ全体に対して設定します。ここでは、レイヤ全体に対して表示コントロールを設定する場合について説明します。

地図縮尺による表示コントロールはレイヤ毎またはグループ毎に設定することができます。

個々のレイヤに対しては、〈レイヤコントロール〉ウィンドウで表示 / 非表示の縮尺を設定することができます。または表示マネージャでグループやレイアウトの名前の上で右クリックして、メニューから [縮尺範囲の設定 (Set Scale Ranges)] を選択することでグループやレイアウトの中の各レイヤに対して設定することができます (図 2)。現在のズームレベルで縮尺的に表示されないレイヤの場合、レイヤの上で右クリックすると [見えるまでズーム (Zoom to Make Visible)] という選択肢があります (図 1)。他にも [小縮尺でズーム (Zoom to Minimum Detail)] や [大縮尺でズーム (Zoom to Maximum Detail)] などの表示に関する選択肢があります (図 1)。レイヤが最小と最大の両方の縮尺設定を持っている場合はメニューにこの 2 つが表示されます。縮尺の範囲に入っていてレイヤが表示されている場合、[見えるまでズーム] という選択肢はメニューに表示されません。現在表示中の縮尺で非表示に設定されているレイヤの名前は、凡例表示の中で緑色で表示されます。

地図縮尺による表示コントロールには気をつける点があります。大縮尺というのは、縮尺を表す分母の数字が小さいことで、地物がより詳細に表示されます。縮尺 1 : 1 というのは、画像や図形オブジェクトが実際のサイズで表示されていることを意味します。他方、縮尺 1 : 100 というの対象物が実際のサイズの 100 分の 1 で表示されていることを意味します。TNTmips では縮尺の分母の数字を [最大 (Maximum)] フィールドに入力しますが、それが大きいということは小縮尺であることを示しています。[最大] の設定は、右ボタンメニューの [小縮尺でズーム] を選択した時に使われる縮尺です。

縮尺範囲を超えて縮小表示されていると、[見えるまでズーム] と [小縮尺でズーム] は同じ結果を与えます。描画される縮尺を超えて拡大していると、[見えるまでズーム] と [大縮尺でズーム] は同じ結果になります。〈縮尺の範囲 (Scale Ranges)〉ウィンドウの [最大] フィールドに値が入っていると、右ボタンメニューの中に [小縮尺でズーム] が現れます。〈縮尺の範囲〉ウィンドウの [最大] フィールドは〈レイヤコントロール〉ウィンドウの右側のフィールドと同じです (図 3)。[最小 (Minimum)] フィールドに値が入っていると、右ボタンメニューに [大縮尺でズーム] が現れます。



このフィールドに入力すると、図 2 の [最大 (Maximum)] フィールドにも表示されます。